

平成29年 新春懇談会

年 頭 に あ た り

平成29年1月6日

礼文町長 小 野 徹

明けましておめでとうございます。

輝かしい平成 29 年の穏やかな新春を皆さんとともに迎えることができましたことを心からお慶び申し上げます。

また、本日は、新年早々の何かとお忙しいところ、新春懇談会にご出席を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、皆様には、日ごろから町政の推進にあたり格別なるご理解とご協力をいただいておりますことにあらためて心から厚くお礼を申し上げる次第でございます。

さて、本年も年の始まりにあたり、新春懇談会の席上で、町の表彰条例に基づく「功労者表彰式」を行わせていただきました。

本日受賞された皆様は、地域を災害や火災から守り、安心安全な地域づくりと住民福祉の向上のため、長きにわたって尽くされた方、あるいは、郷土礼文町の発展のため献身的にご尽力を賜りました方々でございます。本日ご出席をいただきました「吉田 稔」様には、そのご功績に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。真におめでとうございます。

また、昨年まで、自治会長として多年にわたり自治の進展に尽くされた「長谷川義孝」様、並びに交通安全指導員として長年にわたって本町の交通安全運動に寄与された「真宮民雄」様、「小林初雄」様、さらに、本町の特色ある教育連携等の推進に長年ご尽力された教育委員の「柳谷秀一」様、の四名の方が退任されましたので、退任にあたり、永きにわたる温かいご尽力に対し、感謝状を贈らせていただいたところでございます。新しい年の始まりにあたり、ふるさと礼文町の発展を願って大きな夢の種をまかれ、本町の振興発展に多大なご功績を賜りました皆様にあらためて衷心より敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

これからも礼文町発展のため、変わらぬご支援ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

さて、2017年、平成29年は酉(とり)年であります。酉年の「とりこむ」「羽ばたく」と云う言葉にかけて、商売などでは縁起の良い年と云われておりますので、新たな仕事へのステップアップをしていただきたいと思います。

また、酉の王様と云われるワシの存在から「ワシ掴み」という言葉もあるとおり、「手でしっかりつかむ」ということで、「大きな幸せをしっかりとつかむ」年にさせていただきたいと思っております。 60年前の昭和32年、1957年も同じ「酉年」でありましたが、この年は長嶋茂雄さんが巨人に入団した年であり、その後のプロ野球が黄金期を迎えるきっかけの年となったのでございます。

今年は、礼文町にとりましても、まさしく「大きく羽ばたく」年、「大きな幸せをしっかりとつかむ」年にしたいと考えています。

今年の4月から、「有人国境離島特別措置法」という新しい法律が施行されます。 礼文島も利尻島や奥尻島とともに全国71の「特定有人国境離島」に指定され、わが国の領海や排他的経済水域の保全に貢献している離島の地域社会の維持を図り、無人島にしないために、国の責務で、特定国境有人離島地域を維持するための施策を確実に実行していくという心強い法律でございます。

特に、フェリー運賃をJR運賃並みに、また、航空運賃を新幹線並みの運賃に引き下げることや水産物の輸送コストの更なる低廉化、さらに滞在型観光の推進、また、雇用機会の拡充では民間事業者が起業や事業を拡大するための設備投資資金や運転資金を最大5年間にわたり支援するというソフト事業が中心ではありますが、これにより、新規雇用者を増加させ、観光振興を推進して交流人口を増やすことによって、国境離島地域の人口減少に歯止めをかけようとするものであります。

今、本町では、人口減少に歯止めをかけるため、「礼文町まち・ひと・しごと創生」総合戦略を実施しています。

「島に安定した雇用を創り上げること」「島に新しい人の流れをつくること」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえること」「他の地域と連携して時代にあった地域をつくり安全な暮らしを守ること」の四つを目標に掲げて「暮らす人々が幸せを感じ、将来にわたって住み続けたいと思えるまちづくり」をめざしています。

私は、本町発展の大きな柱は、やはり、礼文町の基幹産業である「漁業」と「観光」を振興させることであり、本町経済の基盤を安定させ、働く場を増やし、元気なまちにすることだと思っています。

昨年の本町の香深船泊両漁協合わせた水揚げ金額は、前年の12%上回る41億5千7百万円と、史上初めて40億円を超える過去最高の水揚げを記録した漁業者の皆さんの頑張りに心から感謝しているところでございます。

特に、ホッケは、全道的に不漁が続いている中で大変心配されましたが、前の年に比べ水揚量、金額とも大幅に増え、金額では11億1,800万円となっています。

また、エソバフンウニ、キタムラサキウニともに水揚量では減少しましたが、価格の上昇により金額では12億1,200万円となりました。

しかしながら、年々漁業者の高齢化が進む中、魚種ごとに大きな変動がみられ、しかも、回遊するホッケも減少傾向にあり、ウニの資源も見通せないことから、水産業全体の所得は、まだまだ不安定要素が多いと感じております。

今年、ホッケの資源管理やウニの増殖対策とともに次代を担う若者への支援と育成や価格安定のため付加価値向上対策事業をより一層推進し、漁業経営の近代化と生産性の安定を図り、併せて漁港漁場の整備や安心して漁業に従事できる漁業者支援などさらなる漁業の振興に努めてまいります。

さらに、礼文島の海産物に付加価値を付ける「礼文ブランド」の開発は総合戦略においても喫緊の課題であります。

今「ふるさと納税」が大きく伸びており、昨年10月から12月末までの3ヶ月間で7,443件1億6千85万円が寄せられています。その理由は納税額の半額について礼文ブランドの特産品をお返ししていることにより好評を博しているものと思いますが、さらに新しい製品の開発を進めて、礼文ブランド品の活用を図るとともに、礼文ブランド品の販路拡大を通して水産加工の振興と雇用の場の拡大を図り、将来は、島で獲れた海産物に大きな付加価値をつけ、企画から加工、販売までを島内で一貫して行う新しい地域経済流通システム、所謂「新礼文島の6次産業化」により、礼文島内に若者の働く場を増やす総合戦略にしたいと考えております。

一方の観光につきましては、一貫して観光客入込数の減少が続いておりましたが、昨年の礼文島への観光客入込数は、宗谷管内の入込数が前年を下回る中でも、前年より0.9%増の11万7千人となり、宿泊については、5月から8月までツアー客を中心に、上期の延宿泊者数は対前年同期と比べますと10%増の5万7千4百人余りと観光においても少しずつ明るさが見えてきました。

これからも、地域資源を活用した体験コンテンツを磨き上げるとともに、国や北海道が推進している「広域観光周遊ルート・日本のてっぺん・きた北海道」の指定を受けた新しいインバウンド対応をはじめ、海と親しむことができる礼文島ならではの体験滞在を強かに推し進めるなど、受け入れ態勢を充実させ、創意工夫して、礼文で「もう1泊」泊ってみたいと感じていただける滞在型観光を推進し、魅力あふれる礼文島観光をめざしてまいります。

また、「北のカナリアパーク」の入園者が、昨年10万人を超えたことは、礼文島に新たな観光施設が開いたものと強く感じています。

これからも「北のカナリアパーク」の整備を進め、町民皆さんはじめ礼文島においでの皆様方に、さらに進化した「北のカナリアパーク」で憩いと癒し、さらに交流の場を提供してまいります。

わが町においては、ここ数年、子育て支援等を進めてきたお蔭で、少しずつ、赤ちゃんが増えておりまして、平成 26 年度に礼文町で生まれた赤ちゃんは 9 名でしたが、27 年度は 20 名、今年度は 17 名と着実に増えております。

また、「ふるさと応援体験道場」と「ふれあいコミュニティセンター」建設の明るい槌音も響き渡っており、完成も間近であります。早期の完成を待って、新年度早々から活用してまいります。さらに昨年 11 月には、香深市街地区と元地地区を結ぶ「新桃岩トンネル」が開通しました。1,489m の宗谷管内最長のトンネルにより、日常生活はもとより水産観光などにも大きな進展が図られ、本町の町づくりも大きく変わることが期待されるなど、トンネルの向こうから明るい光が射し込んでくるようでございます。

昨年12月に、地方創生総合戦略の審議委員さんにお集まりいただき、これまで実施してきた総合戦略の反省と評価を行ない、新年度に向けては、さらなる積極的な展開が必要との取り組み方針が決定されました。

先ほど申し上げました「有人国境離島特別措置法」を十分に活用するとともに、新たに安倍内閣が進める「一億総活躍社会」に向けた取り組みも加えて、相互に連動しながら、思い切った地方創生総合戦略の取組みを進めようと思っております。

「地方創生」の先は、まだまだ長いわけではありますが、「若い世代の夢や希望に応える町にすること」、また「漁業や観光が飛躍できるチャンスを創れる町にすること」は私たちにとって大きな挑戦であると考えております。

同時に、未来の人たちが評価できる元気で明るいまちを創ることも、今を生きる私たちに課せられた大きな責務であります。

私は、今年も、その先頭に立って「元気なふるさと礼文町」を創りあげ、「安心して暮らせる礼文島」を取り戻してまいりますので、あらためて、町議会議員各位並びに町民皆さんの尚一層のご理解ご協力をお願い申し上げる次第でございます。

結びになりますが、皆様にとりまして、今年一年が素晴らしい年でありますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

本年もよろしくお願い申し上げます。

(ご清聴ありがとうございました。)